No-44
1986 .5-15

月刊 RIPPLE

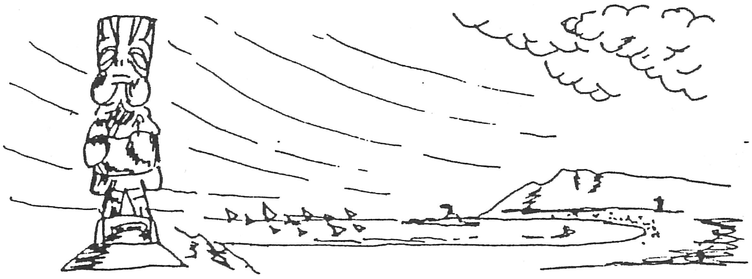
¥500
ル・セイリングクラブ
〒238-03
神奈川県横須賀市長井町長浜3872
☎ 0468-57-1711

6月8日 長浜カップは渡さないぞ!

来たる6月8日（日）のリプルカップは、あの長浜カップをかけてファーイーストとの対抗戦、春の部です。去年の秋から始まったこの対抗戦。1位高槻、2位長崎以下賞品を総ナメにしたあげく、長浜カップはリプルのクラブハウスで年を越したのでありました。

上位10位以内のポイント合計により勝負を決めるこのシリーズ、多勢出た方が徳なのは言うまでもありません。下位どうしの醜い戦いも見所です。

ファーイーストとしては前回欠席したたのみの綱のK420軍団にここで御登場ねがいなんとしてもカップ持って帰るとイキ込んでおるようす。負けられません。



なをこのレース、リブルランキングにも加えますのでランクアップを狙っている方も参加よろしく。賞品も出る予定だぞ！

…で、6月1日は帆走会です.

その日は朝から雨でした。しかも原発事故の影響で放射能があるやら言うのでちょっとまよいましたが、きょうは帆走会の日、メゲてはいられません。着替えて海へ出ると雨は上っちゃったりして、これも日頃の行いが良いせいでしょう。

そんなわけで、行われた帆走会、やはり朝の雨のせいか、はたまたあのいまわしい原発事故のせいか、参加者はさみしいしだい。それでも7艇ほど集って、静かな長浜の海を走り回りました。

一人より二人、二人より三人、多勢集れば楽しいのは言うまでもありません。ワイワイ言いながらゴチャゴチャと走ると普段気がつかない事にも気がつくというもの。

「オヤ、杉田君はドレンコックをしめ忘れているではないか。」
と気がついた渡来君は、おもしろそうなので自艇からしばらくジッと観察してたのですが、おりよく微風。セオリー通りバウトリムで乗っている杉田艇のポッカリ開いた水ぬき穴は水面上にでたまま、いっこうに水が入っていきそうにありません。つまらなくなった渡来君はとうとう

「杉ちゃん、ドレンが閉まってないよ。」
と注げました。
それを聞いた杉田君、少しもあわてず
「すいませんけど、閉めてくれます？」
と言ったのですが、渡来君も少しもあわてず「いいよ。」と言って艇を寄せ、並走させながら手をのばしてドレンコックを閉めてしまったのでした。

その後も杉田君はバウトリムをたもちながら走りさって行ったということです。

1の事が10になる。楽しいリブルの帆走会。
次回は6月1日（日）の予定ですのでふるってご参加下さい。
天気がよくなるはずなんです。

ヨット駅伝

おしくも総合3位

綱引に涙をのむ！

レポート　大木伸郎

もうすでに初夏を思わせる様な感触が心地よい、4月13日（日）恒例のセイリングスポット対抗ヨット駅伝が、参加7チームを集めて開催されました。

コースは、由比ヶ浜ハーフムーン前をスタートし、逗子マリーナ沖を回り、逗子海岸料金所脇までを第1レグ、ここからさらに鐙摺ノ鼻をかすめて森戸海岸森戸神社寄りまでを第2レグ、これまでを往路とし、ここから逗子までの復路を第3レグ。そして、逗子海岸から由比ヶ浜のスタート地点をこんどはゴールに変えた第4レグの4区間です。我がリブルからの参加者は、第1レグ；渡辺、相沢の女性チーム、第2レグ；長谷川、杉田。第3レグ；長船、大久保。第4レグ；高堀、磯貝の8選手、応援団の野村、運転手の塩野谷、大木の総勢11名でした。

さて、レース状況ですが、晴れ、南の風2～5mの快適なコンデションなるも、折りからの春の陽気で、わかめの成長がことのほか良く、特に第1、第3レグの成否は、わかめの処理にその成否がかくされていたようです。（高堀氏、磯貝氏弁ーセンターボドをぬいて、すべるようにして進むのです。！）

レース結果は、はからずも第1レグでわかめにつかまり6位で第2レグへバトンタッチ、第2走者これにめげず区間2位で森戸に到着。一方、運転手、応援団の3人は森戸で待機。第1レグの距離もあり、1時間ほどもかかったので、待機組もレースの進行状況をつかむのに双眼鏡で海面をじっと見つめ、各艇のセールNo。を一生懸命確認したのでした。

森戸からの第3レグは、熟年組にもかかわらず、17～8分と早く、ここでも区間2位とリブルは上り調子、あまりの早さに、最終レグの選手がのんびりと昼寝の始末。熟年組の罵声が飛ぶも、第4レグでは健闘めざましく、最後の全力砂浜ダッシュも大きくきいて、なんと区間1位、この時、ハーフムーン（A）チームは歩いて余裕のゴールと思いきや、2秒違いで区間賞をリブルチームにさらわれ無念の涙。結果、6－2－2－1で、セイリングポイントは2位、その後、浜での綱引大会が行われたのですが、不運にもリブルは、最強チームと、トップに対戦。相当頑張るもあえなく敗退。綱引では5位となって、トータル3位に後退という成績でした。

最後に成績発表をかねてレセプションが行われましたが、そこで出たビールが大変おいしかったです。

ーー　ひろみの一言　ーー
ビエンナビールがおいしかったのよ！
「杉ちゃん今度買って来てね。」
杉田うなずく。

つぎの週に杉田氏はひろみちゃんの為にビエンナビールを阪急で捜してきたのでありました。めでたしめでたし♡
来年は綱引チームを作って頑張りましょう。

第22回リ[illegible]ルカップ

来ました来ました、絶好のセーリング日和が。
５月１１日（日）、数えて第２２回のリブルカップが南南西３～５ｍ／ｓと、まさに初中級者向きに吹くなか、多くの会員の夢と希望を乗せてスタートしました。

◇　◇　◇　◇

なぜか当日長浜の海は例のイケスが無く、網もほとんどなし。他のレースもナシという広々ムード。ランクアップを狙うＡ．Ｂ両クラスの選手達。くわえて、しばらく顔を会わせていなかったレーザー超人軍団の参加で上級者にとっても相手にとって不足なし！　と、レースはまさに手にあせにぎる戦闘の場と化したのであった。

今年度よりランキング制導入のため、海上参加の非クラブ員は総合成績からははずされるものの、いずれ劣らぬつわものぞろいの超人軍団に、リブルＣクラスの名誉をかけても負けられない。

これらオープン参加者８名を加えた１８艇のレースフリートはシングルハンダーであり、いつもよりやや長めのコースではあったが、終始接近戦が展開された。

２時半までに４レースが消化され、第４レースではなみいる超人軍団をおさえトップフィニッシュのＣクラス長谷川、どうどうの総合優勝（ちなみにオープン参加者を入れてもレーザーの多賀氏につづく２位！！）又、毎レースごとに磯貝、高槻、橋本、高堀と乗りまわしたホッパー６６０７も超人軍団と互角にわたりあい総合２位、とクラスＣの面目をたもった。

総合３位は今回初参加の大久保。クラスＡからの参加であるがおそらく秋までにはＣへ上ってくるであろう。

このところ着実に実力アップのＢクラス武倉、あぶなげなくクラス１位、総合４位。しかしまだＣクラスの選手を負かすまでにはいたらずポイントは一まずおあずけになった。

さて注目のＡクラス脱出をかけたフレッシュマンの戦い。今回思わぬ強力新人大久保の出現はポイント稼ぎをもくろんでいた選手にとって思わぬ障害になったようである。が、このところ熱心にヨットに取組んでいた太田（弟）がたいへんよい走りを見せクラス２位。そしてスループ艇のクルーとしてはすでにクラスＣに入ろうと言う杉田がシーホッパーに乗りゼロからのランキング挑戦、クラス３位とそれぞれＢクラスへ王手をかけた。すでにだいぶ前から王手がかかっていた目崎は今回クラス４位。おしくもＢクラス入りはもちこしとなった。

今回２度めの参加、ホッパーの宮本もじょじょにレースなれしてきているし、どうやら来月のレースはクラスＡでの激戦が予想される。

そんな来月にそなえて、レース終了後、スタート練習、スピード練習等がおこなわれた。
参加艇はそれぞれ胸に秘めた来月への熱い思いをシートとテラーにたくし、夕日に向かって限りなく走っていったのであった。

来月は６月８日。ファーイーストとの対抗戦もかねて行う。

野球小僧はヨットかい？

どうもこのところ天気が悪く，連休初日の４月２７日も快晴ながらドピュー吹き，で一部のウインド小僧だけが喜んでたけど“フリート仲間”（テレビ見た？）はヨットを出すわけにもいかず退屈しておりました。そこで日頃ヨットでうち負かしているファーイーストフリートに野球でも勝ってやろうと言うことで　バットとボールを持って殴り込みに行ったのでありました。
ファーイーストでも当日予定していたレースが中止になり力をもてあましていた会員が大勢たむろしておりまして、たちまち試合開始。若い娘っこのギャラリー多数の声援の中、激しい乱打戦がつづきました。好打者、水野。好守、ハッシーこと長谷川。そしてピッチャー、野球音痴の高槻等の活躍で第一試合、９対４と楽勝。
昼にコロビーを決めた（コロッケでビールを飲むこと）あと第２試合、前半ファーイーストの強力な打撃陣と　闘将大川のボデープレイで６点のリードを許してしまいましたが、後半、ピッチャー塩野谷の調子も回復、打戦も爆発し、奇跡の大逆転、２連勝。商品のオロナミンＣで乾いたのどをいやしました。
負傷者数名をだしながらも楽しい１日を終えたのでありました。

長浜漁協よりお知らせです

長浜漁協よりお知らせです。
この５月、例年のように長浜では潜水漁業が解禁されました
なにしろ潜って漁をするわけですので、ヨット、モーターボート等との接触は大変危険です。漁船の近くには絶対近ずかないようおねがいいたします。
わけのわかってないカートップセーラー等にも一言声をかけてあげてください。
潜っているダイバーからはかなり遠くを走っているボートの水きり音も聞こえるそうで、その恐怖ははかり知れないものがあります。
安全で楽しいセーリングをいたしましょう。

世界の
ヨットクラブめぐり

さていきなり初登場はロイヤルホンコンヨットクラブ（Ｒ．Ｈ．Ｋ．Ｙ．Ｃ）だけどはっきり言って☆☆☆☆☆の星５つ！！なんてったって豪華。ヤードにはワンデザインのキールボート（エッチェル２２って言ったっけな？ソリングみたいなやつ）がズラーリと並びムムッこれはなかなかやるぞ！って感じ。
クラブハウスのドアを開けるとそこにはフッカフカのカーペットが敷きつめられちょっと薄暗い廊下がつづく。
壁にかけられた大きな古い絵や数多くのトロフィー。
広いベランダからは活気に満ちた国際港ホンコン港内が一望に見渡せる。いくつかにわかれた広いミーティングルームはもう高級ホテルのロビーだ。
ブレザーをバチッと気込んでアタシュケースを持ったメンバーが女王陛下の特大絵画の前で昼さがりのティータイムを楽しんでいる図は、これぞ王室ヨットクラブという感じ。

なわけで、僕らがここのバーで一杯やってたってハーバー職員が一休みしているみたいにしか見えないわけでなんか落着かない。

そんな豪華なクラブハウスのわりにはハーバーはきっちゃないのでありまして、ちょっとした船だまりにズラッと海上係留している図は、ちょっと日本の地方都市ヨットハーバー風。ヨットの数や大きさは比べものになんないけどね。

ヨットまでは５～６人乗りくらいの運転手付サンパンが常時待機、送り向かえしてくれます。
とにかく安い中国人の労働力でサービスは万全。係留中のハルのぞうきんがけ、金属磨き、艤装、解装、はたまた夜もデッキの上にフトン敷いて泊込みの番までしている人がいたりしてもうあぜん！！ここではとにかく白人が偉いのだ。ウエーッ

で我々としては夜な夜な中国人街へと足をむけるのでありました。食いもんはうめーし、イナチャの女もね。

〈評価〉	建物	☆☆☆☆☆
	環境	☆☆
	人情	☆

（ただしサンパンの運転手ワンさんは別）